

私たちの力で吉名の町を盛り上げよう ～吉名未来創造プロジェクト～

1 単元のデザイン

単元の見直し

地域を活性化させるための取組を企画し実行する活動を通して、地域活性化に向けて多くの人たちが連携して取り組んでいることとそれらの人々の思いや願い、工夫を理解し、自分たちの取組の実現に向けて多様な人々と協働して吉名町をPRする返礼品を考える中で、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、自分の個性を認識して、夢や希望をもって将来を切り拓こうとすることができるようにする。

単元について

本単元で扱う材は「ふるさと納税と返礼品」である。吉名町が属する竹原市は、令和6年4月に消滅可能性自治体であると報道された。年々若年人口が減少し、2050年には自治体が無くなってしまいう可能性があると言われており、このような中で町づくりを行うために必要な税収を増やすために行われている施策がふるさと納税である。また、ふるさと納税の納税額は返礼品によって左右される。そのため、ふるさと納税と返礼品を材とすることで、町づくりに必要な税収を増やすという自治体の抱える課題と必然的に向き合うことになり、社会的な広い視野から課題を設定する力を育成することができる。

本単元の主な活動は、ふるさと納税の返礼品の内容の企画と返礼品を通じた町の魅力のPRである。竹原市の税収を増やすという課題を踏まえながら、その解決に向けた返礼品の内容の企画を生徒自身が考える。それによって、課題を発見する力・企画する力を育成することができる。また、日程や連携先などを含めた綿密な計画を立てることで、活動を計画・推進する力を育成することができる。加えて、市場調査や顧客像の具体化を行う中で、情報を収集する力や整理・分析する力を育成することができる。そして、生徒が考えた企画を学校運営協議会などで提案し、それに対する助言を基に改善案を考えることで、評価する力を育成することができる。実際に返礼品を作る段階では多様な人と関わる必要があり、協働する力を育成することができる。

共創の視点

本単元では、学校運営協議会委員の方や竹原観光まちづくり機構の方、吉名町の地域の事業所の方と協働して吉名町の魅力をPRする返礼品を企画・開発する。この活動によって、地域の方と共に地域の課題の解決を図るという地域との共創を実現する。

生徒の実態

本学級の生徒の多くは、吉名町は田舎であり、この町で生活をしていくことは難しく、将来は他の市町で生活したいと考えている。一方で、これまでに吉名町の自然や歴史を調べたり、学園の畑でじゃがいもを栽培して道の駅で販売したり、修学旅行先で竹原市の特産品を販売したりするなど地域と関わる活動を通じて、吉名町に貢献したい、盛り上げたいという願いをもっている。

課題を発見する力・企画する力については、学級の少数の生徒の意見を基に課題が設定されることが多く、課題を発見する力・企画する力の定着は一部の生徒に限られている。また、その生徒も自分たちの興味・関心から課題を設定することが多く、社会的な広い視野から課題を設定する力は身に付いていないと考えられる。

整理・分析する力については、これまでの学習の様子から、様々な情報を表などを用いて分類することはできるが、関係付けたり、多面的・多角的に分析したりして特徴を見出すことはできない。

評価する力については、これまでの学習の様子から、制作物に対してPMIシートなどを用いて、よい点や改善点を出し合いながら、その都度取組を改善することができる。

協働する力については、本学級は全体として大人しく、自分の意見を発信できない生徒が多いため、多様な意見を出し合いながら議論を行い、合意形成を図ろうとすることができていない。また、生徒自身も、一部の生徒に判断を委ねたり、頼ったりすることが多かったという反省から協働する力に課題意識をもっている。

指導の工夫（単元づくりの5つのポイントの具現化）

- 生徒が吉名町の活性化と竹原市の税収の確保という社会的な広い視野から課題を設定し、解決に向けて主体的に取り組むことができるように、竹原観光まちづくり機構の方からふるさと納税の仕組みや返礼品を通じた魅力発信について教えていただき、それを基に本単元の課題設定を行う。（思いや願いに基づく挑戦、本物からの学び）
- 多面的・多角的に整理・分析することができるように、自分たちの企画を学校運営協議会などに提案して、様々な立場の方からいただいた助言を基に改善案を考える場を設定する。その際、整理・分析することを効果的に行うためにPMIシートなどの思考ツールを用いる。（再挑戦の場の設定）
- 地域活性化に向けて生徒が企画した取組を実現するためには、自分たちの力だけでは実現が難しく、学校運営協議会や竹原観光まちづくり機構の方など多様な人を巻き込む必要があることに気付くことができるように、企画した取組の実現の可能性や実現に必要な人、もの、ことを考える場を設定する。また、地域を活性化させるためには、道具や資金などの協力を得ることも必要だが、地域の方の思いや願いも大切にしなければならない。そのことを意識できるよう、適時、助言する。（巻き込む活動）

2 単元の評価規準

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 地域のよさや課題、地域活性化に向けて多くの人が連携して取り組んでいること、取り組んでいる人の思いや願い、工夫を理解している。</p> <p>イ 第Ⅲ期までに身に付けた技能を基に、以下のABCについて目的に応じて、効果的な情報収集・処理、画像・動画の撮影・編集、情報発信を行っている。</p> <p>A 必要な情報を収集するために、複数のキーワードでのウェブ検索をしたり、アンケートアプリを用いてアンケートを作成して実施したりしている。表計算アプリを用いて、表に数値を入力して情報を整理し、自分で目的に合わせたグラフの形式を選択して作成することができる。</p> <p>B 写真や動画の撮影ができる。画像のトリミング、明るさの調整などの画像編集ができる。動画編集アプリを用いて、撮影した動画を必要な部分だけトリミングし、それらをつなげたり、「分かりやすくする」「印象付ける」などの意図に応じて文字やイラストを入れたりして、動画を作成することができる。</p> <p>C 文書作成アプリやプレゼンテーションアプリを用いて、レイアウトを選択し、編集した写真や動画、言葉を入れて、統一感のある文書やプレゼンテーション資料を作成することができる。また、出典を明記し、責任ある情報発信を行っている。</p> <p>ウ 地域のよさや課題、活性化に向けて多くの人が連携して取り組んでいること、活性化に向けて取り組む人々の思いや願い、工夫に関する理解の深まりが探究的な学習をしたことの成果だと気付いている。</p>	<p>エ 体験活動やインタビュー、資料の分析で得た情報や自分たちの興味・関心、地域の方の思いや願い、社会的な広い視野から課題を設定し、課題解決に向けた企画を出している。</p> <p>オ 課題解決に向けて、自分（たち）で、必要な情報や準備物、解決方法や手順などの計画を立て、見通しをもって計画的に活動を進めている。</p> <p>カ 目的に応じて適切な情報収集の方法を選択し、事前に考えた計画（質問項目など）に沿うだけでなく、その場での気づきを基に別の観点で観察したり、相手の反応を見ながら臨機応変に追加の質問をしたりして、より詳しい情報を収集している。さらに、情報の発信元や真偽を確かめながら、図書資料やインターネットを使って、必要な情報を収集している。</p> <p>キ 様々な情報を、比較・分類したり、順序付けたり、関係付けたり、多面的・多角的に分析したりして、特徴などを見付けている。</p> <p>ク 目的や意図に応じて、相手を説得したり共感を得たりすることができるように論理の展開などに注意して構成を考え、グラフや動画、文章など効果的な方法を選択したりそれらを組み合わせたりするなどの工夫をするとともに、原稿なしで、即興で言葉を生み出して自分の考えを伝えている。</p> <p>ケ 既存のアイデアにアレンジを加えたり、肉付けしたり、組み合わせたり、多角的な視点から物事を見つめて改めたりしながら、新たなアイデアを考え、形にしている。</p> <p>コ 自分や他者の発表や制作物に対し、よい点や改善点などを見付けて伝えている。自己評価や他者からの評価を基に、制作物や取組を見直し、その都度改善している。</p>	<p>サ 課題の解決に向けて、実社会の場でも進んで挑戦し、失敗や困難に出会ってもその場で臨機応変に対応したり改善を図って再挑戦したりして、最後までやり切ろうとしている。</p> <p>シ 課題の解決に向けて、多様な意見を出し合いながら議論を行い、合意形成を図ろうとしている。自他のよさを生かしながら多様な他者と協働して活動を進めようとしている。</p> <p>ス 活動を振り返る中で、自分や友達、地域、様々な職業などのよさに気付くとともに、自分の個性（長所や短所）を認識し、自分の将来を考えて、夢や希望をもって自分の将来を切り拓こうとしている。</p>

4 本時について

(1) 本時の目標

商品紹介ページのアクセス数などの情報を整理・分析する活動を通して、人気の返礼品に共通する特徴を明らかにしながら、自分たちの商品紹介ページのよさや改善点を見付け、それを基にアクセス数を増やすように見直し、改善することができる。

(2) 本時の評価規準及びルーブリック（(2)コ 評価する力）

S（期待以上）	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）
自分たちや他の竹原市の商品紹介ページのアクセス数などの情報を基に、よい点や改善点を見付けて根拠をもって伝えている。自己評価や他者からの評価を踏まえて、制作物や取組を見直し、改善点を具体的に考えている。	自分たちや他の竹原市の商品紹介ページのアクセス数などの情報を基に、よい点や改善点を見付けて伝えている。自己評価や他者からの評価を踏まえて、制作物や取組を見直し、改善点を具体的に考えている。	自分たちや他の竹原市の商品紹介ページのアクセス数などの情報を基に、よい点や改善点などを見付けて伝えている。自己評価や他者からの評価を踏まえて、制作物や取組を見直し、その都度改善している。

(3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童生徒への指導の手だて（◆）	評価規準 (評価方法)
1 これまでの学習を想起する。	◇これまでの学習を想起することができるように、本時までの学習過程を見通せる掲示物を提示しておく。	
2 本時の課題を設定する。	◇自分たちの商品紹介ページと比較し、改善案を考えられるようにするために、竹原市の他の商品紹介ページのアクセス数を提示する。	
より多くの人に見てもらうために、商品紹介ページの改善案を考えよう。		
3 PMIシートを用いながら、自分たちの商品紹介ページを分析する。	◇視点をもって分析しやすくするために、商品紹介ページに関するデータの項目の意味を全体で確認する。 ◆改善案が見つからない生徒には、商品紹介ページに関するデータ項目の中から視点を1つに絞って考えるように指導する。	自分たちや他の竹原市の商品紹介ページのアクセス数などの情報を基に、よい点や改善点などを見付けて伝えている。 (行動観察)
4 改善案を考える。	◇今後の取組の改善案を焦点化するために、竹原観光町づくり機構の方からの商品販売に関する情報を共有する。	
5 考えた改善案を全体で共有し、これからの活動の見通しを立てる。	◇お互いの今後の活動計画について発表し、それに対して不備や改善案などがないかを吟味する活動を行う。	自己評価や他者からの評価を踏まえて、制作物や取組を見直し、その都度改善しようとしている。 (ワークシート、行動観察)
6 本時の学習を振り返る。	◇商品を売ることだけにとらわれないように、「吉名を盛り上げるために活動している」という自分たちの取組の目的を再確認する。	

(4) 板書計画

11/20 より多くの人に見てもらうために、商品紹介ページの改善案を考えよう。

P

地元の中学生在が作ったことをPRできている。
自分たちの活動の思いが入っている。
ストーリーがPRできている。

滞在時間が一番長い

- 内容がよく読まれている。
- 写真の枚数が多い。
- 文章が読まれている。

吉名のじゃがいもという地域名が入っている。
→吉名町をPRできるページになっている。

M

レビューが少ないから、信頼感が出にくい。

期間限定や数量限定の言葉があると良い？

他の商品はセット内容がある。

味が分かる情報が少ない。
調理法が入っていない。
→レモじゃが炒めのリンクを入れてみる？

I

アオハタは写真が明るくて、色がきれい
お得感・限定感があるページほどアクセス数が多い。

人気No.1は目を引く。

牛タンは写真が美味しそう
動画でメッセージを伝えている。

これからの改善案は？

- ・ページに動画を載せてもらう。
- ・ページのサムネイルに情報を加える。

→Next

竹原観光町づくり機構の方と連携する。